

### <随筆>

## 晴舞台でのごあいさつ

会長 合原一夫

もう20年以上も前の事だが、結婚式に招待され、来賓者の祝辞が始まる直前、花嫁の母親がやってきて、挨拶を頼んだ方がいらっしゃらないので、代わりに私に挨拶してくれ、という話。母親のことはよく知っていたが、娘さんの花嫁さんことはよく知らず、結果としては、今思い出しても赤面するほどの大失敗で、後から妻からもこっぴどく叱られてしまった。その後に挨拶された市議員の方のハナシ上手なこと。これは慣れの一言が大切だと思った。そして話題を自分なりに持っていないといけないこと等を学んだ。以後、クラブの司会役も率先してやってみるようにし、公開映写会での司会役も、何事もまずやって見ること、と引き受け、何とかいけるようになった。これは日ごろから知っている者同志の間で話題が主なのでまだ楽だが、初めてのケースではまだ心もとない。先日、岐阜での吉田瑞穂、吉滝雅之お二人の映写会では、会場満員の大盛況の雰囲気にあがってしまい、ごあいさつの最初のお二人のお名前がすっと出てこない。よけいあせってしまって失敗だった。最初の出だしが大事なのでメモを手におくべきだった。4日後に行われた八王子の西澤幹夫氏個人映写会での挨拶の際は、プログラムを持って舞台上に上がったので今度はうまく行った。それにしても市長さんも挨拶されていたが、さすが手慣れた挨拶でうまい。政治家は選挙のとき辻説法などで見知らぬ人に語りかける、演説する訓練をされているので、皆うまい。政治家、噺家等には敵わないが勉強したい。

舞台上で挨拶したり司会を務めたりするとき、困るのは、スポットライトで照らされ、しかも客席が暗いときである。これは舞台上で主演者が出演するときはいいかも知れないが、スポットライトを当てられると、まぶしくて、観客席の客が見えないことである。挨拶や司会のときは、客の反応を見ながら話すと安心感がでるし、落ちつけるものである。公開映写会ではスポットライトはいらない、というのが私の結論である。

### 7月例会のお知らせ

■第2例会:第3木曜7月20日 13時より、撮影会作品コンテスト日。撮影会未参加の方もどうぞいらして下さい。残時間は一般作品上映。

■通常例会:第4土曜日22日 18時より。難波市民学習センターにて開催。

## 大阪アマチュア映像祭は 11月5日(日曜日)と決定

恒例の大阪アマ映像祭は上記の通りです。

### 6月例会レポート

梅雨の合間の例会日、会場は寒い位の冷房が入っていて、上衣を忘れて寒い寒いとふるえるひと。例会には簡単な上衣必要。

今月の司会は本来は柴辻氏だったがご欠席のため進藤氏、書記、河合氏、映写、稲田、坪井の両氏、メモリ録画、江村氏、受付、華岡、宮崎の両氏、掲示、紙本氏の担当で進行した。

出席者:有村、稲田、井上、岩井、江村、紙本、河合、合原、進藤、関、高瀬、坪井、野田、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本、山城、弓取、中村の23氏。

#### ■作品上映(今月の講評は河合世話役)

##### 1. わたらせ溪谷鉄道(BD)

紙本 勝 7分40秒

「わたらせ溪谷鉄道」は、JR 桐生駅から足尾銅山のあった終点の間藤駅までの44キロを、渡良瀬川沿いに走る文字通りの「溪谷鉄道」です。ウイークデーとあって乗客は少なく、カメラが列車の最前列の席を独占して、新緑の溪谷美を堪能させて頂きました。紅葉の時は満員でしょうね。土日祝日にはトロッコ列車が走ります。作者にちょっと伺ったところでは、桐生までは長距離夜行バスだったとか。12時間かかりますよね。これでは気安く「紅葉のわたらせ溪谷」も見せて頂きたいとは言えません。

##### 2. ここに、こんなものが(BD)

前田 茂夫 9分35秒

作者はこのところ、身近な題材を追っかけられているようです。タイトルの頭に「駄菓子屋さんシリーズ」とありますから、身近な町の「駄菓子屋さん」を、引き続いて追っかけられる決意が伺えます。また、副題に「兵馬俑のある駄菓子屋さん」と出ますが、何故中国・西安の駄菓子屋さんが登場するのか?と、タイトルだけで観客に興味をもたせる手法は流石だと思いました。やがてこの映像の主人公はお孫さんではなく、「駄菓子屋さんのおばさん」と判ってきます。「この広いマーケットに、何故

このおばさんの駄菓子屋さん一軒だけなのか? 何故大きな兵馬俑が鎮座しているのか? 誰が買いにくるのか?こんな広い場所で経営が成り立つのか?やがて、おばさんの話の中で何とはなしに答えが出て来て、結果は「ガッバってね」と激励してお別れ、清々しい気持ちになりました。次作が楽しみです。

##### 3. 首都レイキャヴィーク(BD)

華岡 汪 11分00秒

作者のアイスランド紀行も回を重ねて3回目、首都レイキャヴィーク訪問となった。

しかし、アイスランドに人が定住するようになり、國の態をなしたのはそう古いことではなく、歴史を刻んだ遺跡も多くはない。そこで観光の目玉として登場するのがオーロラ。アイスランドでは何処でもオーロラを見る事が出来るらしいが、ビデオ撮影は無理で、スチール写真を沢山撮って画面を合成するのだそうです。作者は600枚も撮られたとか。素晴らしいオーロラの映像が続くなかで、ENDマークが出て、珍しい極北の旅を堪能しました。

##### 4. 能登のでか山(改作)(BD)

河合源七郎 12分47秒

昨年のOMCフェスティバルで映して頂いた拙作の改作版です。不満の点が何か所かあって、今年5月の連休に再度挑戦しました。

その結果、新しく追加、入れ替えをしたカットが2分40秒、無駄なカットを除いて前作より20秒ほど短くしました。如何でしょうか

##### 5. よさこい柳町(BD)

江村 一郎 8分10秒

狭い道筋を大きな地方車が現れ、踊り子たちが思い思いの衣装で、激しく踊っている。それを江村流の超アップのレンズが追う。

伝統や仕来りにとらわれることなく、進化を求めてスタートした「よさこい祭」は、若者の共感を得て一挙に全国的に広がり、今なお拡大をつづけているのは皆様ご存知のとおりです。ところで、柳町とは一体どこか?ネットで検索すると出てきました。追手筋の観覧席、帯屋町の演舞場の中間に、道の狭さとうねりを売り物とした、「柳町演舞場」が出来ていました。1年にたった一夜、それも夕方から3時間半だけここが開放され、出場出来るのは

「追手筋と帯屋町に所属するチームで且つ15組に限定」とあります。まさに「よさこいの高知が、更なる革新を狙って設けた新しい舞台」と感じました。しかも道端の飲食店の客との交歓などには、度肝を抜かれました。10年を超えて取材を続け、革新を求めて今なお進化する「江村よさこい」に、満腔の賛辞を送ります。

#### 6. 湖西に春を告げる坐禅草(BD)

進藤 信男 7分50秒

冷、温帯の山岳地帯の湿地に生育する「坐禅草」を、野生の南限地滋賀県今津の地で取材されました。花卉を仏像の光背に見立て、僧侶が坐禅を組む姿に見えることから「坐禅草」名付けられ、2~3月の早春に雪の中から芽を出して咲き、春を告げます。

しかし、厳しく管理されていて、自由に撮影する事は出来ませんから、「春に先駆けて咲く」といった雰囲気を出すことは先ず困難でしょう。そんな困難を乗り越えて、丁寧によく撮影されていたと感心しました。

#### 7. 狭山池公園の桜(BD)

宮崎 紀代子 6分10秒

日本最古の灌漑池として記紀にも登場する狭山池が、「狭山池公園」として生まれ変わり、多くの「人々に親しまれる狭山池」に進化したと作者は言います。池の周囲には大阪で一番早く花が楽しめるよう早咲きの品種を、更に次々と桜を楽しめるように、各種の桜を取り揃えて1300本の桜が、市民の手で植えられたと言います。そして今年は気候不順の為に総ての桜が一気に咲き出し、今を盛りと咲き誇っています。友達を誘って、或は家族連れで、思い思いに桜を楽しんでいる市民達の姿をみて、「これぞお花見だ」と感じ入った次第です。

#### 8. 鷹匠達の心意気(BD)

中村 幸子 7分45秒

作者は今回「鷹匠」の世界を取り上げられました。江戸時代「鷹狩り」は権威の象徴としてとらえられ、捕鷹と訓練を受け持つ職分として「鷹匠」という世界が生まれました。

徳川幕府が倒れるとその権威と伝統と職分は、皇室・皇族に引き継がれ、敗戦と共にこれらの世界は壊滅しました。

そして自然保護の波が大きく襲ってきて、古来の「狩猟業」は絶滅状態となり、逆に農林作物や人間にまで被害が及ぶようになって、「鳥獣保護法」は見直される時代に入りました。これらの変化の中で、「鷹狩り」の伝統や文化の継承は、苦難の道を揺れ動いて来たことでしょう。作者は、これらの鷹匠たちの後継者や、その文化に共鳴する人たちの「心意気」と「生き様」を、感動を持って見守ろうとされているようで、その熱意にはほとんど感心させられます。然し、「鷹狩り」は本来組織された団体が広大な野外で行ったものですから、アマチュアの映像としては、誠に纏めにくい素材だと思います。また個人のアップショットを、激しい動きの中で捉えることも簡単ではなさそうです。また鷹を扱う人は職人氣質が多いようで、「インタビューで心意気を語る」のも苦手のようなですね。

皆さんから大好評を得た中村さんの前作「もう大丈夫!輝く未来への旅立ち」とはこの辺が違うと思います。ドキュメントには何の知識もない私ですが。アマチュアのドキュメントでは、「映像の対象としては個人を見つけることが大事だ」と思いました。

#### 9. 志摩への旅(BD)

有村 博 9分45秒

ご次男の案内で昨年サミットが開催された伊勢志摩へ家族旅行をされた時の映像です。

レンタカーとはいえ、ベンツでスタートとは豪華な旅のスタートです。先ずは英虞湾を俯瞰出来る横山展望台へ、快晴に恵まれて絶好の景観が展開されます。泊まりと食事は志摩観光ホテルなど3カ所、観光船で英虞湾をクルーズ楽しみ、素晴らしい旅でしたね。

#### 10. 春日大社瑠璃会(DVD)

弓取 克弘 6分00秒

毎年2月に1週間、観光機関が夜の奈良を回廊に見立ててライトアップを行い、多くの人たちを楽しませています。作者は先ず春日神社を訪れます。流石に参道は光量が不足気味ですが、本殿やそれに連なる吊り灯籠はうまく撮れています。お参りの人も次々と続いています。ところで、帰りの参道は光量不足ではなく、うまく撮れています。そうです。今で

はカメラも進歩して、マニュアルで露出を合わせる必要はなく、フレーム・ワークを少し工夫すれば、暗いところでもオートで適正露出を得ることが出来ることがあります。工夫して見られては。

いよいよ「なら瑠璃絵」の名前になったイルミネーションの登場です。流石に奇麗ですね。春日神社や興福寺の伝統の光と、近代的な透明感のあるイルミネーションの光、古代と現代、伝統と斬新、相反するものを繋ぎ合わせる「テーマ」が欲しいと思いました。「なら瑠璃絵」は「一つのテーマで映像を纏める」と、何か物語が生まれてくると思える素晴らしい題材だけに、一工夫をと思いました。

#### 11. 風薫る因幡街道をゆく(BD)

森口 吉正 9分55秒

因幡街道は、江戸時代姫路から鳥取までの参勤交代に利用される重要な脇街道でした。作者は今回大原宿から始って、誰一人訪れる人のない宮本武蔵ゆかりの里を訪ねました。さらに南へ、森口さんは新緑の道を山越えに、「釜坂峠」に向います。そして峠への八合目で「名水・一貫清水」を見つけ、咽を潤しました。峠を降りると、もうそこは播磨の國、利神城跡の城下町平福です。映像で紹介された平福の町は、城下町や宿場町というより、川沿いの港町、物資が行き交う「商いのまち」のように感じました。平福は江戸時代中期、大名の所領から旗本支配の地が変わったのが、大原と平福の「町の佇まい」に差となったのかも知れません。

今回は因幡街道の大原から平福までの短い距離でしたが、播磨-美作國にまたがる新緑を背景に、稔り多い旅でした。

#### 12. 鞍馬山竹伐り会式(BD)

高瀬 辰雄 8分30秒

火祭りで有名な鞍馬寺の年中行事の一つです。僧兵姿の鞍馬法師達が、径40cm長さ4mの青竹を大蛇になぞらえて、近江、丹波の二組に分かれて竹を伐る早さを競い、吉凶を占います。「流石に地元ですね。殆ど席を動く事なく、全シーンを撮影されていましたね」と申し上げましたら、「あの席なら2時間前に行けば抑えられますよ」との答えが返ってきま

した。どうですか。貴方も一度チャレンジされませんか。

#### 13. セピア色の風景(BD)

坪井 仁志 3分00秒

セピア色がどんな色か? 語源はイカ墨らしいが、初期の白黒写真が、経年劣化すると黄ばんで画像の退化が進み、その色合いがセピア色となることから、懐古的に事象をイメージする色として「セピア」が定着したらしい。

だから「思い出はセピア色 未来は薔薇色」なるフレーズも生まれた。

ところで、作者はどういう思いでこの作品の題名に、セピア色を採用されたのだろうか。映像に対する思いは、人それぞれであっていいと私は思っている。だから作者がどういう意図でセピア色を採用されたかを、私は聞いていない。ただ、余りにも画面のセピア色が奇麗なので、「映像の色彩は撮影されたままですか、ある程度調整されましたか」と聞いてみた。答えは「調整しました」と返ってきている。

#### 14. バンジャルマシン(BD)

山本 正夢 11分20秒

バンジャルマシンは、インドネシア(旧ボルネオ島)の南カリマンタン州の州都で、東洋のベニスと言われているそうです。因にインドネシアは人口が世界第4位の大国で、ジャワ、スマトラ、旧ボルネオ島など一万数千の島から成り立っている島嶼国家です。まだ明けやらぬ海を多くの船が集まって来て、海上マーケットが賑わっています。その中を水上レストランが店開きします。

作者は岸の水上集落の狭い露地を辿りますが、そこには現地の人々の生活が垣間見られます。やがて町に出たのでしょうか、沢山の通勤、通学のバイクが道路を塞いでいて圧倒されました。道教寺院が出て来て中国系の人々の町でしょうか。お正月風景のようですね。突然猛烈な雨、お正月に雨期かと思いましたが、矢張りそうではなく普通の激しい雨のようでした。

最後はダイヤモンドの採掘現場の紹介。ここはダイヤの採掘でも名高いのですね。知りませんでした。